



hida

広 報

ひだ

町 木



第99号

肥田町自治会

肥田町
まちおこし
推進協議会

新年のご挨拶

自治会長

山本長孝

新年明けましておめでとうございます。

町内の皆様には、ご家族お

揃いで輝かしい新春を

お迎えのこととお慶び

申し上げます。



昨年は、自治会活動につきま

して、格別のご理解とご協力を賜り、誠に

ありがとうございました。本年も引き続き

ご協力のほどよろしくお願いします。

さて、昨年は前年に続くコロナ禍の中

「みんなで美しい町づくり、健康で楽しい

町づくり」を基本方針に掲げ取り組んで参

りましたが、新型コロナウイルスの感染拡大

が止まるところを知らず、当県において

も八月に「緊急事態宣言」が発令されるな

ど、イベントや地域活動の自粛を余儀なく

されました。

特に、「楽しい町づくり」の一つとして

皆さまが楽しみにされていた夏祭り、文化

祭については、いろんな催しを計画してい

ましたが開催できなかったことはとても残念でありました。

一方、「美しい町づくり」については、町

内の小河川や水路の掃除、史跡や土塁の除

草管理、また、公民館の内外の整備など皆

さまのご協力のもと、一定の取組みは行う

ことが出来ました。

また、長年継続して要望してまいりまし

た県道の歩道設置につきましても、ようや

く工事が開始の運びとなりました。

しかし、当自治会が抱えている課題はま

だまだ山積しております。これら諸課題に

つきましては、まちづくり委員会に諮問さ

せていただきました。

本年こそ新型コロナウイルスが終息す

ることを願いながら、有意義な自治会活動

を行なつてまいりたいと考えています。

自治会活動は、会員の皆様の参加をもつ

て成り立っています。より実のあるものに

していくためにも、引き続き皆様のご支

援、ご協力を賜りますようよろしくお願い

します。

新年最初の行事として、来る一月十六日

に自治会役員選挙の投開票と賀詞交換会

を計画しております。できるだけたくさん

の方が出席いただけることを心よりお待

たします。

ち申し上げます。

結びに、皆様にとりまして、本年が素晴

らしい年となりますようご祈念申し上げます

ますとともに、皆さまのご健康とご多幸を

お祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせてい

たきます。

祝
ご長寿の
お慶びを
申し上げます

百寿 (大正十二年生まれ)

宮川八重さん

白寿 (大正十二年生まれ)

鵜野義子さん

卒寿 (昭和八年生まれ)

伊関徹男さん

藤野良枝さん

青木徳男さん

鹿島義雄さん

米寿 (昭和十年生まれ)

藤野英子さん

川松芳子さん

傘寿 (昭和十八年生まれ)

藤野節子さん

薩摩四郎さん

鵜野栄美子さん

大村国子さん

喜寿 (昭和二十一年生まれ)

松山恵美子さん

鹿島三重子さん

薩摩きよ子さん

山本秋子さん

古希 (昭和二十八年生まれ)

山本長孝さん

中村重和さん

成宮好子さん

藤野佐津子さん

森田淑江さん

鵜野功さん

還暦 (昭和三十七年生まれ)

松田弘子さん

高瀬佐和子さん

成宮克豊さん

薩摩乃史さん

森野勉さん

成宮敏和さん

謹賀新年

農事改良組合長 森野 勉

新年明けましておめでとうございます。
日頃は組合行事にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
選挙で改良組合に携わることになり戸惑うことばかりでしたが、諸先輩方のご指導により新年を迎えることができました。任期も残り三ヶ月となりましたが最後まで一生懸命努めたいと思います。



改良組合の役割は時代の流れとともに変化しており、現在は耕作を担う営農組織との連携が強く求められます。以前のようにならぬ農家を相手にすることはなくなり効率化されたことは喜ばしい反面、土地持ち非農家となった各戸の農家意識が希薄になったことが気になるところです。

肥田町の農業に関する大きな転換点は御存知のとおり平成十六年から二十二年にかけて実施された圃場整備です。「肥田の田は肥田で守る」という思いから、水田の大区域画化、用水のパイプライン化、排水

路、暗渠排水などの整備により生産性の高い大規模経営が可能な農地が整備されました。

様々な意見が交錯する中、肥田町発展のため推進された当時の関係者皆様のご苦労には頭が下がる思いしかありません。先輩の思いを大切にするためにも皆が協力し肥田町発展のために尽くしていかなければと思う今日この頃です。

農業のビジョンへ

農事組合法人ファーム肥田

代表理事 辻野久和

新年明けましておめでとうございます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

先頃の当法人機関紙「ファーム肥田タイムズ」において、新型コロナウイルスの影響が顕著に現れて、米の買取価格が大きく下落した結果、大変厳しい経営状況となっております。農水省の統計情報からすると標準的な米の生産コストは六十キロ当たり一万三千円ほどですから、生産コストを下回るという逆転化が起きている状況である。

銘柄によつては六十キログラムで一万円割れもあった。新型コロナウイルスの影響で米価問題が顕在化した。元々は人口減少や少子高齢化により、米の需要そのものが減少しており、米の在庫量が余っている現状では

自明の理だったということです。従来だと農家や農業団体が政府に対して緊急政策を要望して、補助金制度の拡充・加算を陳情していたが、今回ばかりはどうなるのか不透明である。

現政権は富が一部の階層に集中する構造にメスを入れ「富の再分配」を政策に



を招く恐れがあり、将来像を描くことが困難になるかもしれません。肥田の農業も例外では無いと思われる。

当法人の現状と云えば、採算性のラインで「収入保険」制度に加入、一定額の保障が約束されており経営が傾く様な状況ではないが、将来ビジョンを見据えて取り組んでいく必要性は痛感している。農地の拡大が見込めないなかで生き残るには、従前の米作りからの転換が求められており、堆肥散布による地力回復で収量を向上させるか、コスト削減で生き残るか、高収益作物への転換を図るのがよいかの選択を迫

られるのが必定とも思われる。今以上に効率化や意識改革が各々に求められている。

福寿会会長 成宮為夫

お健やかに新年をお迎えのことと存じます。

福寿会は二年間活動を殆どしていません。作年の行事は、長雨の明けた八月二十二日に長楽寺にて、戦没者・物故者追悼法要をご住職、小室宗純様のご読経で執り行っていました。戦没者、ご遺族二名、物故者、ご遺族四名にご参列いただきました。



山本自治会長が、戦没者と物故者九名のお名前を読み上げて追悼の辞を述べられ皆様にご焼香していただきました。

清掃作業は、四月、七月、十二月に神社と公民館周辺で行っていただきました。

福寿会では会員が四十九名ですが、会のあり方を改めて、六十五歳以上の皆様に参加していただけるように努めていきたいと思ひます。

長寿社会を和やかに暮らしていければうれしいです。

環境部長 薩摩乃史

新年明けましておめでとうございます。



環境部長として、二年を迎える事が出来すのも皆様のご理解とご協力によるものと心より感謝申し上げます。

環境部といたしまして、肥田町の環境保全と住みよい街を目的に活動をすすめてまいりました。コロナ禍で感染拡大を避けるため集団活動を制限されている中では有りましたが、運動場や河川に生える雑草待つてはくれず、自治会といたしましては感染対策をした上で必要最小限の活動に切り替え、年間の除草作業を実施する事が出来ました。

河川・裏川清掃につきましても、密を避けた作業範囲を見直す事により短時間で効率的な清掃を行う事が出来、きれいで安全な河川を維持する事が出来ました。

ボランティアをはじめ

各種団体の皆さんで県道沿いの空き缶拾い等を実施して頂い



ておりますが、一向にポイ捨てによるゴミが減らない事で、県道沿いと宇曽川堤防沿いにポイ捨て禁止看板の設置をいたしました。

環境部の今後の課題といたしまして、皆様より出される分別ゴミの間違いやマナー違反を無くす事です。以前よりお願いしている廃棄されるゴミ袋には必ず(組)番号を記入して頂きますようお願いを申し上げます。

未来の私たちに「きれいで住みよい街を残せるよう今後も環境保全活動にご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

安心・安全な町づくり

福祉部長 矢守貫一

新年明けましておめでとうございます。昨年、新型コロナウイルス感染症の拡大により私達の生活様式も自粛モード一色の一年間だった様に思います。

この様な社会状況の中で、私達肥田町の福祉活動も、大半の行事が中止または延期となり思う様に進んでいない現状です。

今年度の福祉活動も感染対策を行ないながらになりますが、出来る限りの活動をし



て行きたいと思えます。

“少子高齢化が益々進んでいます”

日常の私達の生活にも、老人介護、子供の育成、教育、社会的弱者への支援、災害発生時の住民同士の助け合い等、いろいろな問題が現実のものとなつています。

こうした問題が少しでも軽減され、安心して日常が送れる様に努めて参ります。

本年度も福祉活動への肥田町住民皆様の御支援・御協力をよろしくお願い致します

ご成人おめでとう

一層のご発展を

祈念申し上げます



伊関 傑さん

新年明けましておめでとうございます。



こうして、無事に成人の日を迎えることができたのは、これまで支えてくださった多くの方々のおかげだと感じております。

す。心より感謝申し上げます。

私は、現在大学に在籍しています。そこで「恩送り」という言葉を学びました。これは、誰かから受けた恩を、その人に返す

のではなく他の人に渡していくという意味の言葉です。私は今まで、家族をはじめ親戚、地域の方々など数えきれない人に支えてもらいました。こういった方々から受け取った恩を「恩送り」という形で後世に渡していけるような大人になりたいと思います。

しかし、私自身、成人を迎えたとはいえまだまだ未熟だと痛感しております。これからも周りの方々に助けていただくことがあると思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

藤野陽菜さん

新年明けましておめでとうございます。

コロナ禍で無事成人を迎えられたのは、家族や友人そして地域の皆様に支えていただいたお陰



だと思ひ深く感謝しています。成人としてはまだまだ未熟なところが多いですが、自分自身の行動に責任を持ち、より一層精進していきたいと思ひます。

現在大学で医療系の職業に就くために学んでいます。良き友人たちと共につらい

こともありませんが、残り二年間たくさんの方の役に立てるような人になれるようより勉学に励んでいきたいと思っています。これからもよろしくお願いします。

加藤万柚子さん

新年明けましておめでとうございます。無事に成人を迎えられたことを嬉しく思います。ここ



まで育ててくれた両親に改めて感謝申し上げます。私が日頃大切にしている言葉は「人生一度きり」です。中学生までの私は、自信がつかないと行動できないタイプでした。しかし人生一度しかないと思えば、積極的に何でもやってみることが自分の成長に繋がると気づき、それ以降この言葉を大切にしています。

現在大学では多くの知識を吸収しています。ゼミでは、ゼミ長としての役割を果たすと共に、自分自身の強みを見出していきたいと思っています。そして将来社会に出た時には、相手への礼儀・マナーや謙虚さ、周囲に感謝する気持ちを持ちつつ、人として成長していきたいと思っています。

人生一〇〇年時代

コロナ禍で見直す地域での活動

聖泉大学看護学部

地域看護学准教授 安孫子尚子

二〇二三年、謹んで新春をお祝い申し上げます。

聖泉大学看護学部ならびに人間学部教育にご支援を賜り誠にありがとうございます。また、このような機会をいただいたことに感謝いたします。

最近、「人生一〇〇年時代」という言葉をテレビや雑誌で見たりニュースや学会で聞いたりすることが多くなりました。これは、「長寿」であるという意味の言葉と今後、私達が「どのように過ごすのか」という問いの投げかけでもあると感じています。

二〇一五年、滋賀県の平均寿命は男性八一・七八歳(全国一位)、女性八七・五七歳(全国四位)と報告されました。また、二五年にわたり東京大学で実施された日本の都道府県別の疾病負担研究では、滋賀県の平均寿命と健康寿命(自立した生活を送れる期間)が全国一位となりました。とても嬉しいニュースですが、ますます、年齢を重ねてもどのような自分でいたいかを考えるようになりました。滋賀県のホームページには、長寿の理由が報告されています。それによると滋賀県は、他の都道府県

と比べて喫煙や多量飲酒をする人が少なく、スポーツやボランティアをする人が多いという健康な生活習慣があり、高齢単身者が少なく、県民の所得が高く、図書館が多いといった生活環境が関係しているといふことです。生活環境は一人の努力では改善できませんが、生活習慣は一人ひとりの日々の積み重ねによって獲得することが可能です。この生活習慣こそ「人生一〇〇年時代」を自分らしく過ごすための重要なポイントだと思っています。

生活習慣とは毎日の食事・運動・睡眠をバランスよく日常生活に取り入れ、喫煙や飲酒とほどよく付き合うことなので、一人ひとりの考え方や人生の経験によって違いがあります。しかし、この違いによって生活習慣から生活習慣病、生活習慣病の悪化による脳血管疾患や心疾患の発病、病気の悪化による要介護状態や死に至る結果につながります。皆さんは生活習慣の重要性について、すでに「存じだとは思いますが、知っているもしくは理解している」と実際の継続的な行動を起こすにはズレが生じています。まして、皆さんも「存じ」とおり二〇二〇年からの新型コロナウィルス感染症拡大という状況は行動制限や生活環境を大きく変化させ、生活習慣や健康への影響を及ぼしています。今回は、健康への影響に対する地域でできる取り組みを考えてみることにしました。

コロナ禍で多くの人は、外出する機会や

時間が少なくなり、家で過ごす時間が長くなるという、いわゆる「巣こもり生活」を送ることになりました。巣こもりの生活の中で食生活は、外食する機会が減少し毎日三食の献立を考えるのが大変になり、総菜や冷凍食品の購入、テイクアウトを利用する機会が増えました。総菜や冷凍食品、テイクアウトは保存の関係などから味付けが濃く、塩分や脂質の過剰摂取につながり、栄養バランスが乱れます。運動する機会や取り組み時間の減少は、運動量が低下し体を支える筋肉量を低下させます。筋肉量の低下は骨や関節への負担によって移動(立ち座りや歩行)能力に障害の出るリスクや、歩行速度の低下、握力の低下、身体活動量の低下などの虚弱(フレイル)を引き起こします。外出自粛による運動量の低下や日々の漠然とした不安によるストレス状態は十分な睡眠をとれず、不規則な生活リズムや疲労が改善しない状態を引き起こします。過剰なストレスは喫煙や多量飲酒を引き起こしかねません。さらに、病気を早期発見、早期治療に導く健康診断やがん検診を控えたりする受診控えが起きている現状も心配です。すでに持病のある人は、病院へ行くことと新型コロナウィルス感染症に感染するのではないかと不安によって外出を制限し、かかりつけ医に定期的に通う受診を控えることが報告されています。このように、「食生活」

や「運動」、ストレスによる「睡眠不足」や「喫煙」や「多量飲酒」の生活習慣の変化は、糖尿病や高血圧、肥満、脂質異常症などの生活習慣病を引き起こすことになり、受診控えが起ること、生活習慣病が悪化し、心疾患や脳血管疾患という命に関わる病気へと進行することになります。生活習慣病の発症や悪化を防ぐためには、一人ひとりが生活習慣を今一度見つめなおすと同時に地域にある強みを最大限に活用しながら取り組む必要があります。

稲枝地域の強みは人々のつながり「絆」や「縁」とつながりを軸にした行動力だと思っています。彦根市稲枝圏域の状況では、高齢化率が三二・四％、要介護等認定率は一七・五％とされています。(第八期彦根市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画)。彦根市全体の高齢化率二五・三％、要介護等認定率一七・八％、に比べると六五歳以上の方の割合は多くなっていますが、要介護状態になる人が少ないのが現状です。稲枝圏域の特徴は、自治会での結びつきが強い「絆」があること、高齢者の集合場所という「生活環境」があること、住民の介護予防への意識が高いという「知」があること、住民による介護予防活動の展開、自治会単位での取り組みが熱心、自治会単位で見守り支え合い活動が活発という「行動」が既にあることです。この強みをさらに強化し、生活習慣を整えるためのヒントを参考に取り組みの継続が

できれば、生活習慣病の予防が可能となり、既に生活習慣病をお持ちの人は悪化を予防することができます。

新型コロナウイルス感染症はオミクロン株による拡大が予測されています。私たちができることは正しい情報を知り、感染症対策を行いながらも地域の強みをいかした生活習慣への取り組みが平均寿命や健康寿命を延伸できると確信しています。



万葉秀歌

ひだ・歴史資料館ガイド

松村江梨子

肥田で詠まれた万葉歌

いまから千三百年も前、奈良時代に肥田で詠まれた万葉歌があります。

白真弓 斐太の細江の 菅鳥の

妹に恋ふれか 眠を寝かねつる

この詩は万葉集二十巻に収められている四千五百余首の中、十二巻三〇九二番目の詩です。

「ヒダの細江に棲んでいる菅鳥(番いの鳥)を見て、故郷の妹(妻)を恋しく思っているからか眠ることもできなかった」(白真弓は弓を「引く」から同音の斐太にかかる枕詞)



宇曽川の堤防に肥田集落を背に、この詩が刻まれた石碑は平成七年「肥田町史」出版を記念して建てられました。揮毫は成宮伊蔵氏です。

奈良時代には日本固有の文字はなく、原文は中国から伝わった漢字の音を使って記録されました。

万葉の頃、宇曽川沿いの肥田の地は水辺の鳥が憩う美しい入江「細江」があったに違いありません。今も川の両岸には、沢、三津、海瀬、長江などの呼称でわかるように浅瀬や入江があったのだと思います。

二

ヒダの万葉歌は誰が詠んだのでしょうか。「詠み人しらず」です。

そこで町の歴史を紐解く中、一つの事柄に興味を置きます。鹿島弘一家の古文書に千三百年前、ヒダに古代の戦い(壬申の乱)で敗れた弘文天皇(大友皇子)の子(大友夜須麻呂)がヒダに住み、後に天武政権に加担し、大領(郡役人)行政官の筆頭職として長野の大龍神社(郡衙)郡役所で政治をしていたという記録があり、平城京からの使者がヒダへ来て詠んだとも考えられます。

三



土屋文明記念文学館提供

この詩が肥田で詠まれたと紹介したのは、アラフギ派の歌人土屋文明（一八九〇～一九九〇）です。万葉歌四千五百余首がどこで詠まれたかを調べて「万葉集私注」全二十巻にまとめるという大事業を成し遂げました。その中で肥田を「細江というにはふさわしい」と指摘しています。

文明の出身地群馬県高崎市には土屋文明記念文学館があり、詩元行脚のシユーズが展示されておりますが、それを履いて肥田へも来たのではないでしょうか。同郷の私はとても親しみを覚えます。

昭和六十一年、九十六歳の文明は文化勲章を受賞、平成二年百歳の生涯を閉じました。

肥田の歴史を対外発信

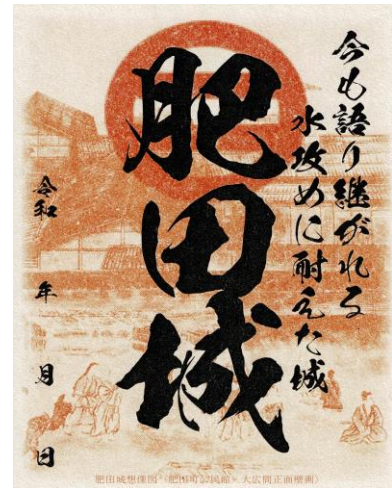
ひだ・歴史資料館顧問

高瀬俊英

お彼岸の中日に当たる九月二十三日、崇徳寺の境内にある滋賀いしずえ碑の今年度の合葬追悼会が行われ、県内各地から遺族や関係者ら五〇余名が参列されました。主催者の依頼に応えるかたちで、肥田の特徴ある歴史が二つ披露されました。

一つは、前述松村さん執筆の肥田で詠われた万葉歌について。もう一つは、近江タクシーが製作された版画をみながら、肥田城が水攻めを受けた話です。

『近江タクシー製作版画』



肥田城は宇曾川の水上交通を取り締まるため、宇曾川の近くに建てられた城。西には愛知川という大河があるが、天井川でその伏流水は肥田に流れてきて宇曾川に注いでいる。現在ハザードマップが作られており、長雨がが続くと四〇五メートル増水すると警告している。

四七〇年前、六角氏は高野瀬氏を懲らしめるため、こうした立地を利用して、梅雨期に聖泉大学の向こうから愛知川に近い野良田にかけて土手を造らせ水攻めにしました。肥田城は五〇余日も水に浸かりましたが、幸い土手の一部が決壊して水は引きました。我が国最初の水攻めと古書は伝えています。翌年はまた肥田で野戦が行われ寺や家が焼かれたりしてひどい目に遭いました。永禄三年、一五六〇年愛知（三河）での桶狭間のたたかいと同じ年でした。

松村江梨子さんが流暢な語り口で話してくれて、新海からの遺族は、これからは地元の歴史にも目を向けたいと話されていました。

気がかりな場所



当町には、愛荘町から彦根市内方面へ南北に抜ける道路があり、最近、車両事故（衝突横転・接触等）が多発状態にあり、特に朝の通勤時間帯には小学生の通学とも重なり、制限速度（四〇㎞）を無視した車両が多

数見受されています。交通ルールを厳守して安全運転に徹していただきたいものです。交通安全啓発活動を兼ねて安全旗を常時設置しているところでは



今後、通過車両増加の要因が見込まれ『信号機（点滅等）』の設置を是非とも懇願するところです。

（事故多発地点の写真添付） k.

歓迎

末永く宜しく
お願いします
四組に北川璃久さんが
転入されました

編集後記

謹んで新春のお慶びを申し上げます。昨年はコロナ禍に始まりコロナ禍で年の瀬を迎えました。デルタ株以外にもオミクロン株が世界的に多国に於て出現し、第六波を心配せざるを得ません。コロナ収束はますます不透明になるばかりです。コロナ感染症対策も情性的になりがちですが、改めて基本に立ち返り各自が『命を守る行動』を行うべきではないでしょうか。

賛否両論の世論のなかで開催された二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピックも、このコロナ禍で各種目、日本勢の活躍により大きな勇気と感動を残してくれました。滋賀県出身のアスリートの活躍にも目を見張るものがありました。彦根市出身の大橋悠依選手の活躍には彦根市民を熱く盛り上げてくれました。

感動の余韻が残る中、自民党総裁も菅さんから岸田さんに交代し、国民の期待度も大きいと思われませんが、今回は期待外れにならないように願いたいものです。

また、当町の新成人に登場願ひ、思いを熱く語っていただきました。それぞれの夢に向かって一歩一歩と歩んでください。

今回の広報には、聖泉大学看護学部・地域看護学准教授 安孫子尚子氏に寄稿いただきました。コロナ禍についての過ごした方等で、お願いしましたところ快諾いただいた次第です。有り難うございました。ご参考にしていただければ幸いです。

末筆ながら、皆さまのご健康・ご多幸をお祈り申し上げます。

*広報担当 成宮克美